ぞうきん新聞

2024年 8月
北陽小学校 5年
松本 桃佳

五年生になって新しく家庭科の授業で、ぬい方を習いました。二学期に持って行くぞうきんを自分で作ってみたいと思いました。ぞうきんを作りながら、ぞうきんについて色々な話をして、もっと詳しくぞうきんについて知りたくなりました。

ぞうきんの歴史

日本で最初に使われたぞうきんは、今は棒ぞうきんと呼ばれているぞうきんです。棒ぞうきんとは、長い木の先にT字になるように木を付け、そこに長い布をはさんだものです。平安時代(794年～1185年)の巻物に、棒ぞうきんで貴族の屋敷を掃除する人が描かれています。

室町時代(1336年～1573年)後期の武家屋敷では、部屋はふすまや障子で仕切られ、棚や物が置かれていたので、棒ぞうきんで掃除をするのはむずかしくなりました。そのため、細かく拭ける手持ちのぞうきんの方が使いやすく、広く使われ始めました。拭き掃除の機会が増え、手持ちのぞうきんは、「浄布(じょうきん)」と呼ばれるようになり、その言葉が広まっていきました。浄布は、のちの「ぞうきん」の語源とも言われています。

江戸時代(1603年～1868年)になり、ぞうきんの素材も変化していきました。それまでの布といえばほとんどが麻かこうぞで、布にするのに大変手間がかかるものでした。しかし、江戸時代には、安い木綿が出回るようになり、使い古した木綿を掃除に利用するように

ぞうきん

今

素材

ほとんどがタオル地

私のお母さんが話してくれました。

ミシンでぬうとぞうきんだよ。
手ぬいのぞうきんはやわらかく
手になじむんだよ。

ぬい方

ミシンなどの機械で

入手方法

買う(100円ショップでは2枚入り)

ビックリ

ぞうきんについて、インターネットで検索したら……最初のページほぼ全てぞうきんの販売のサイトでした。2ページ目サイトの最後で、通ようやくぞうきんの意味が出てきました。!!!

昔

素材

おしめや古着(着物や浴衣)など、使い古した木綿をぬい合わせて作ったよ。

私の80才になるおばあちゃんに教えてもらいました。

ぬい方

手ぬい

入手方法

自分で作る

刺子雑巾

木綿の古布(ふるぎれ)を数枚重ねて刺子にするのがぞうきんの原型。使い古した木綿の布はやわらかく、水分をたくさんすうのでぞうきんにぴったり。昔の人は、布をとても大切にしました。

なりました。ぼろ布を無駄にせず使うことから、呼び名も「浄布(じょうきん)」へと変わりました。参考文献:ミリカン水の文化センター機関誌『水の文化』58号

編集後記

初めてぞうきんを作りました。一枚のぞうきんを作るのに三時間もかかってしまい大変だったけど、楽しかったです。自分の名前を刺しゅうしたので、世界で一枚だけのぞうきんができました。ぞうきんを作りながら、おばあちゃんやお母さんから色々な話を聞いて勉強になりました。

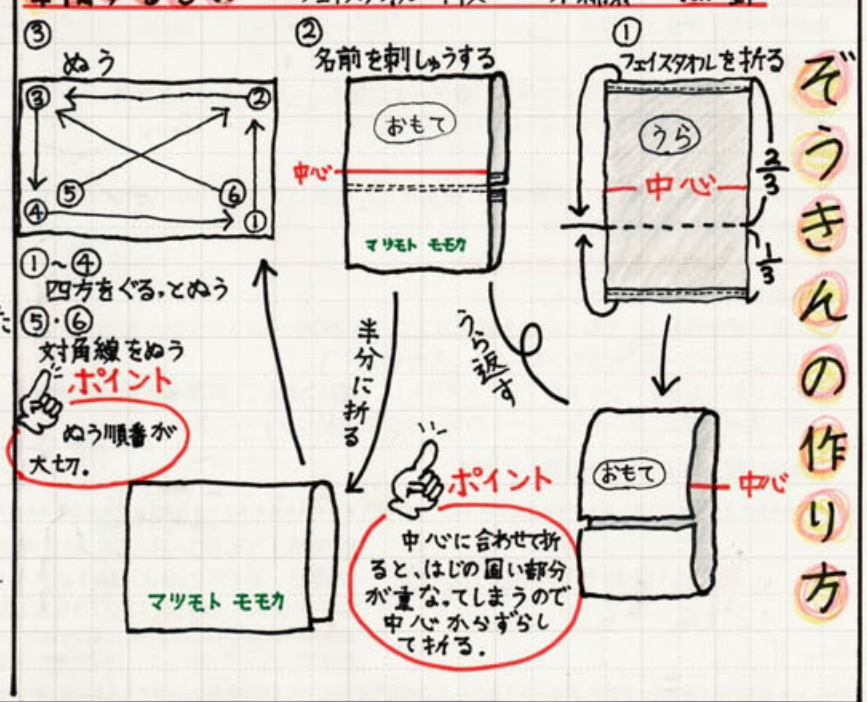
ふだん使っているぞうきんに500年以上の歴史があったり、一枚の布を大切に最後まで使いきる知恵にすごいなと思いました。私も自分で作ったぞうきんを大切に使いたいと思います。

クイズ Q 12人に聞きました

学校に持って行くぞうきんは……

登校班のみんなに聞きました

買う	作る
11人	1人

ぞうきんの作り方

準備するもの ・フェイスタオル 1枚 ・木綿糸 ・ぬい針